

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成13年は21万2千トンでした。

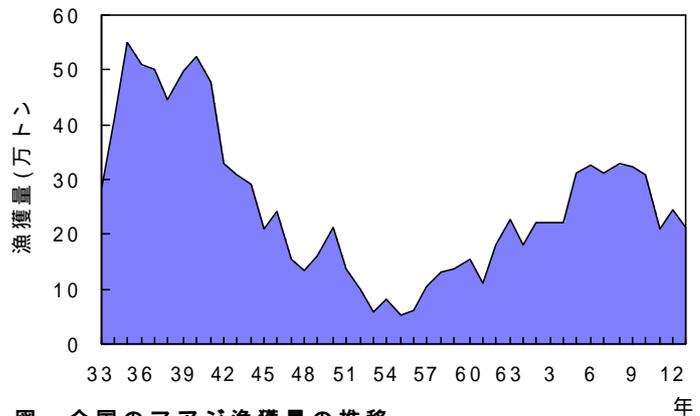


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 平成14年4～6月期の漁況の経過

##### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根～串木野沖(4～6月)に、薩南海域では、佐多岬沖(4～6月)、枕崎沖(4月)野間池沖(4～5月)に漁場が形成されました。

4港計では、豆～小アジ(平成13年生まれ)主体に1,894トンの水揚げで、全般的に好調で、4～5月は、前年・平年を上回り、6月は前年・平年並みに推移し、前年の135%及び平年の146%でした。

#### 3. 平成14年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成14年生まれ)で、来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

(根 拠)

主漁獲対象となる平成14年生まれ群は、平成13年生まれ群並みと考えられます。

小アジ(1歳魚・13年生まれ)の来遊量は、前年を上回ると考えられます。

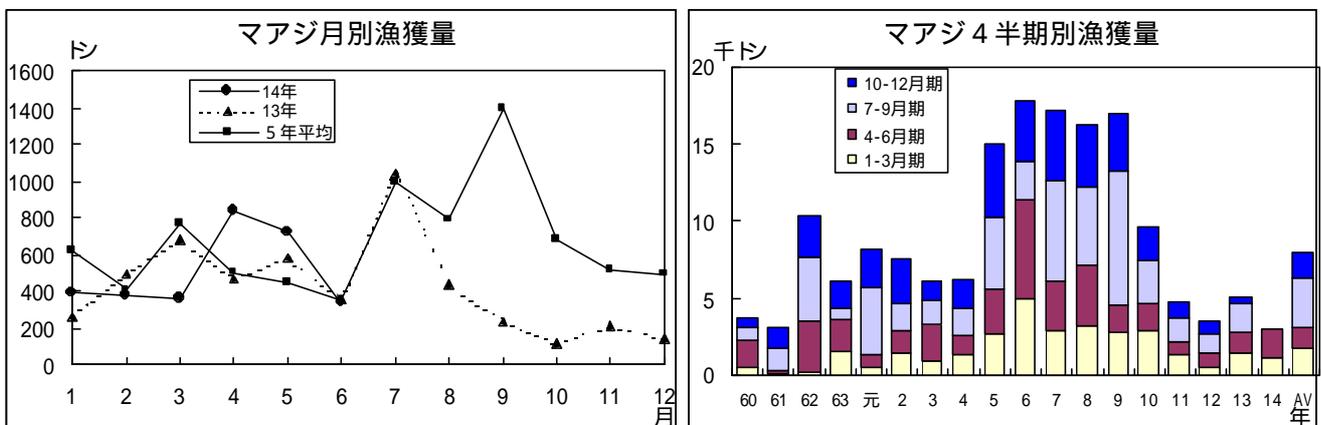


図 マアジ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成9～13年)の平均値,平成14年6月末までの水揚量を使用。

## [ サバ類 ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンを一ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成13年は37万1千トンでした。

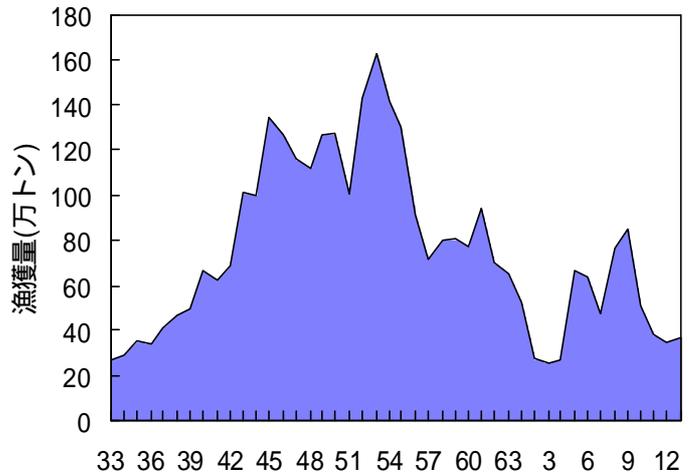


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 平成14年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

主に薩南海域で漁獲があり、馬毛島周辺（4～5月）、枕崎沖（5月）に漁場が形成されました。

4港計では、大サバ（平成11年生まれと考えられる）主体に615トンの水揚げで、前年の28%及び平年の20%と低調に推移しました。

### 3. 平成14年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は豆サバ（0歳魚・平成14年生まれ）で、来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

（根 拠）

東海まき網船で親魚がまとまって漁獲されており、平成14年生まれ群の加入は、前年を上回るものと考えられます。

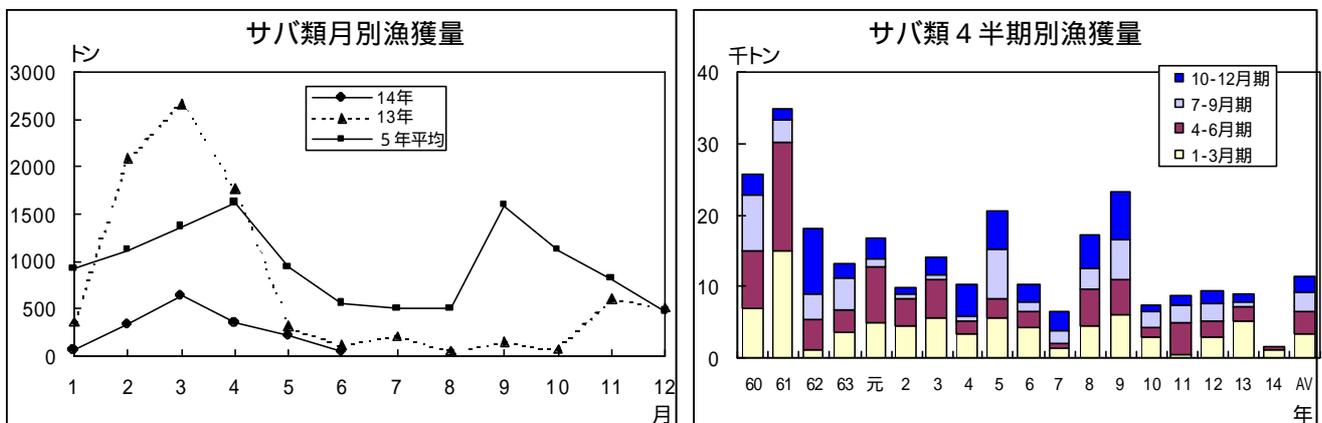


図 サバ類漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年6月末までの水揚量を使用。

# [マイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなり、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トン、平成13年は17万9千トンでした。

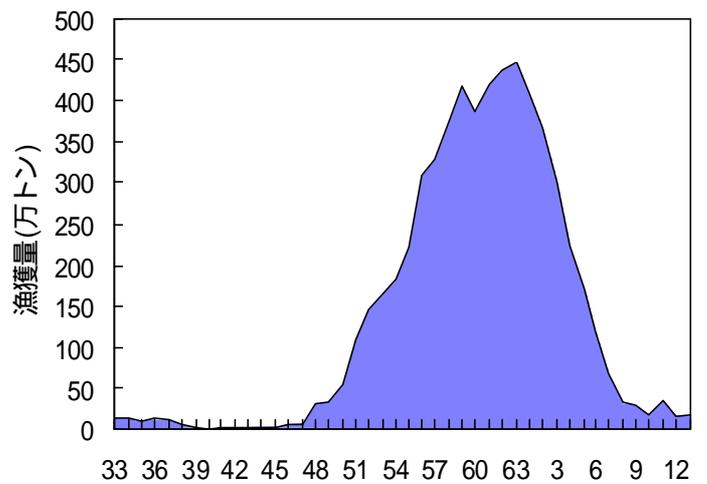


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 平成14年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

ほとんど漁獲がありませんでした。

4港計では、0.1トンの水揚げで前年の1%でした。

## 3. 平成14年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小羽イワシ(0歳魚・平成14年生まれ)で、来遊量は前年を下回るでしょう。

（根拠）

マイワシの資源状態は低水準にあり、前期の漁獲状況から低調に推移すると考えられます。

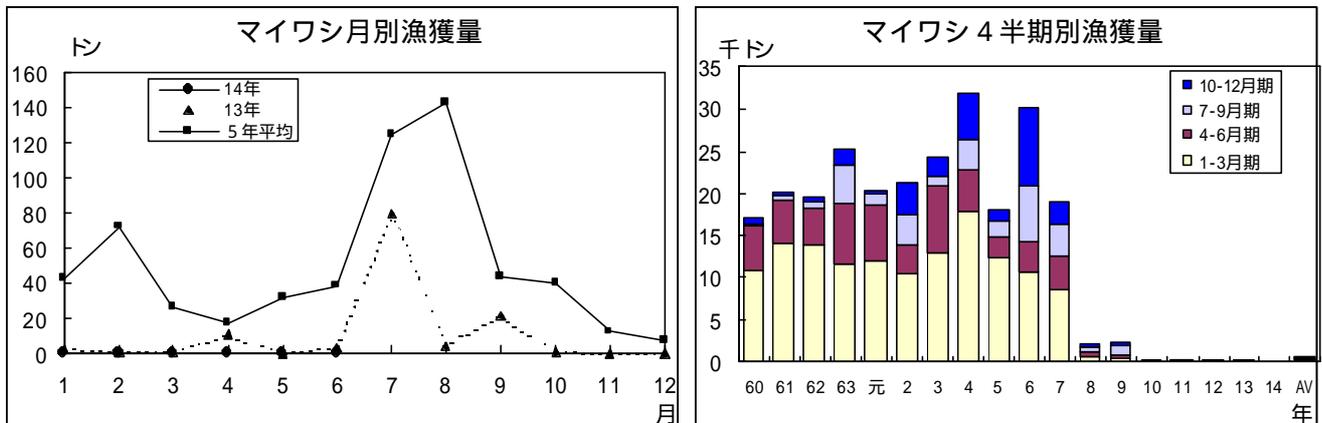


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年6月末までの水揚量を使用。

# [ウルメイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成11年は2万9千トン、平成13年は3万1千トンでした。

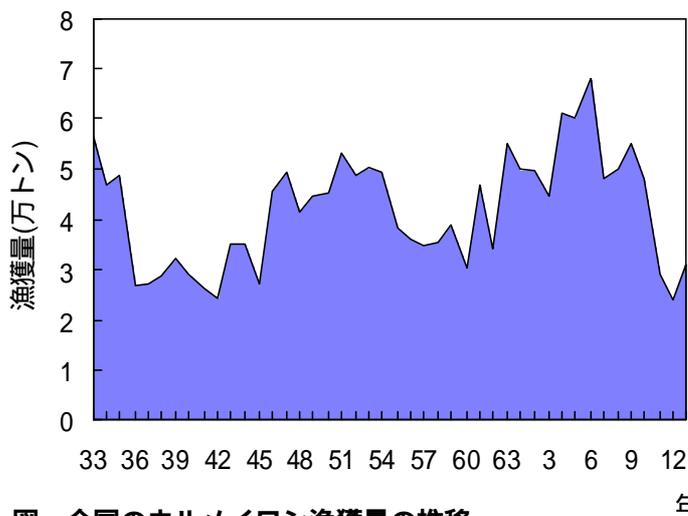


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成14年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕島周辺(4月)、長島沖(6月)に、薩南海域では、佐多岬沖(4月)、枕崎沖(4月)で漁獲がありました。

4港計では、254トンの水揚げで、北薩海域では好調に推移しましたが南薩海域では低調に推移しました。前年の74%及び平年の78%でした。

## 3. 平成14年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小羽ウルメ(0歳魚・平成14年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回ると見られます。

(根 拠)

平成14年2月に北薩海域において棒受網でまとまった産卵親魚群が漁獲されました。また、棒受網(6月)において小羽ウルメの漁獲が好調に推移しています。

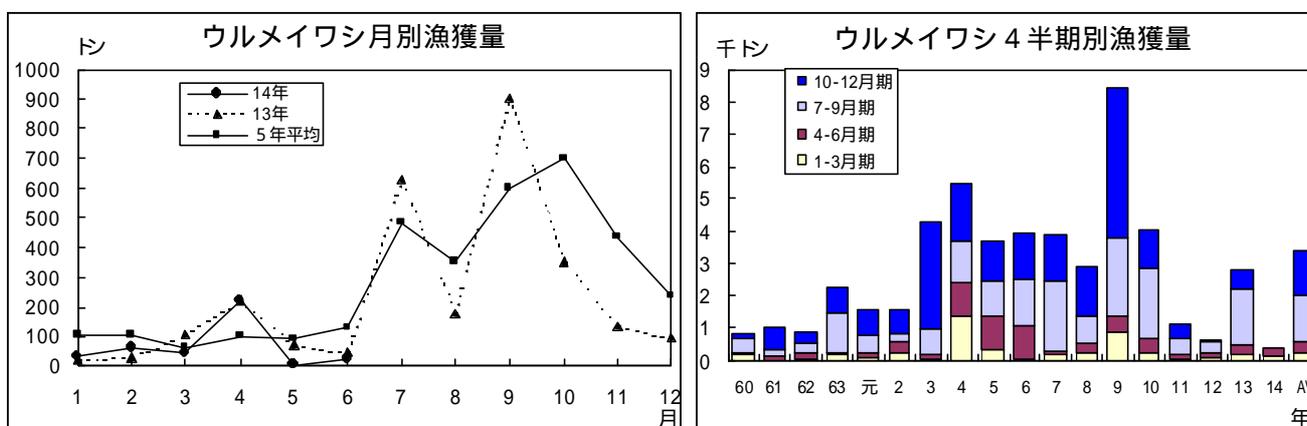


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成9～13年)の平均値,平成14年6月末までの水揚げ量を使用。

# [ カタクチイワシ ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トンとなりました。平成13年は30万1千トンでした。

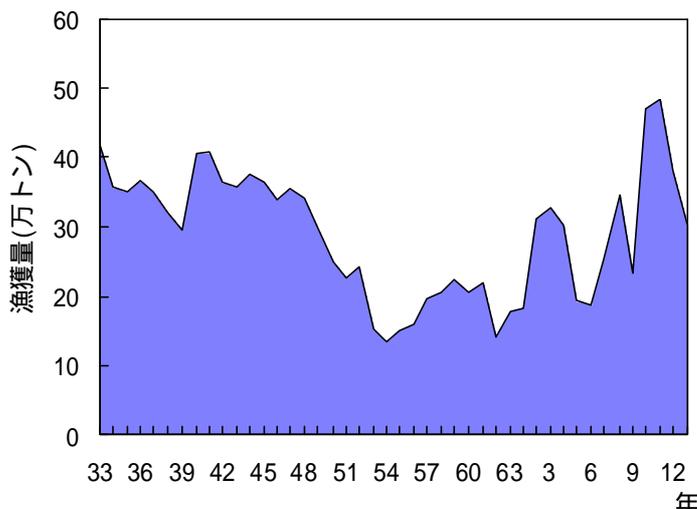


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成14年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌周辺(4月)、長島沖(6月)で、南薩海域では、枕崎沖(4月)で漁獲がありました。

4港計では、360トンの水揚げで、前年の160%及び平年の196%でした。

## 3. 平成14年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は中羽カタクチで、来遊量は前年を下回り、平年並みでしょう。

（根 拠）

近年の漁獲量は高水準で推移していますが、月により漁獲量のばらつきが大きく、減少傾向にあります。前期の漁況の経過等から平年並みに推移すると考えられます。

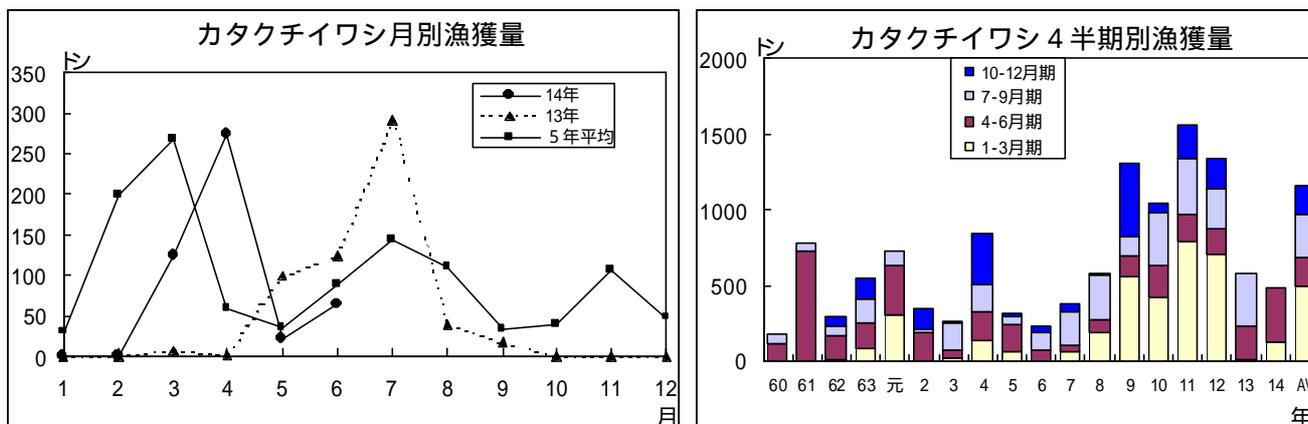


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成9～13年）の平均値，平成14年6月末までの水揚量を使用。

## [ その他の魚種 ]

### ムロアジ類 ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成14年4～6月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年は、やや増加し3,224トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、4～6月期全体では35トンの水揚げで前年の19%及び平年の18%でした。

#### 2. 平成14年7～9月期の見とおし

来遊量は前年・平年並みでしょう。

### オアカムロ ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成14年4～6月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トン、平成11年は減少し2,076トン、平成12年は2,483トン、平成13年は2,337トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、4～6月期全体では257トンの水揚げで前年の113%及び平年の51%でした。

#### 2. 平成14年7～9月期の見とおし

来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

### マルアジ ( アオアジ ) ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成14年4～6月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年は、12年生まれ群の加入が順調で、1,867トンに増加し、平成13年は1,603トンでした。

主に北薩海域及び南薩海域 ( 6 月 ) で漁獲があり、4～6月期全体では511トンの水揚げで前年の142%及び平年の276%でした。

#### 2. 平成14年7～9月期の見とおし

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

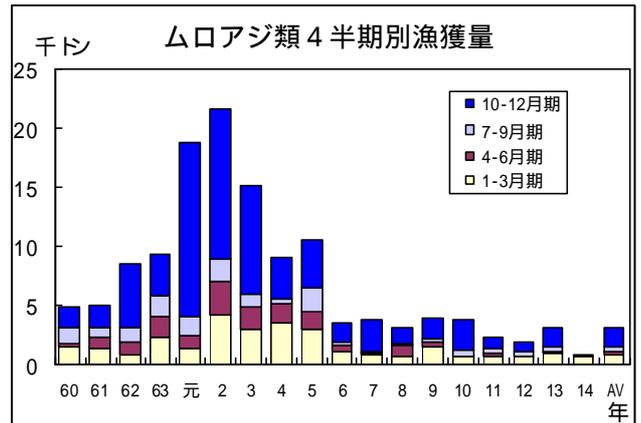
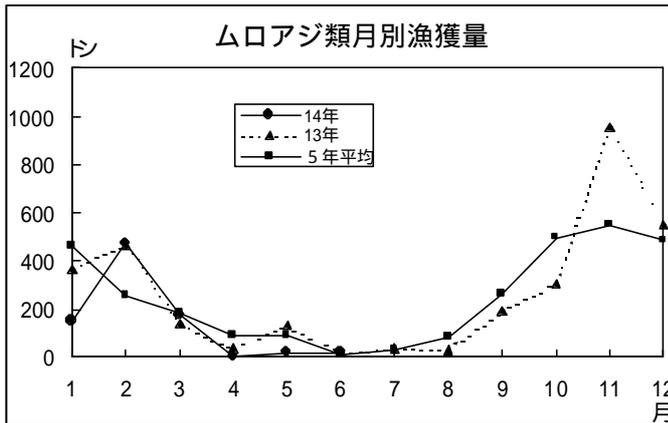


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

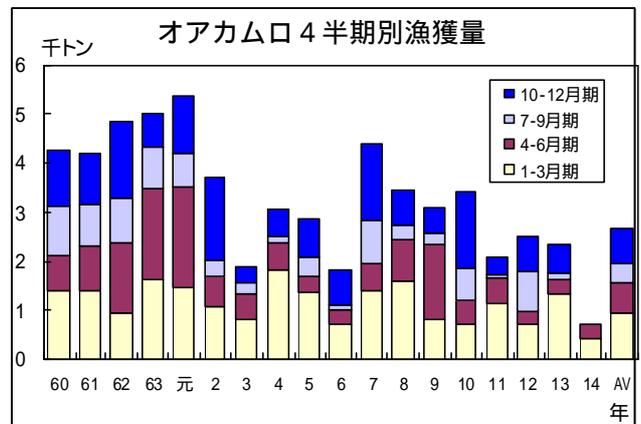
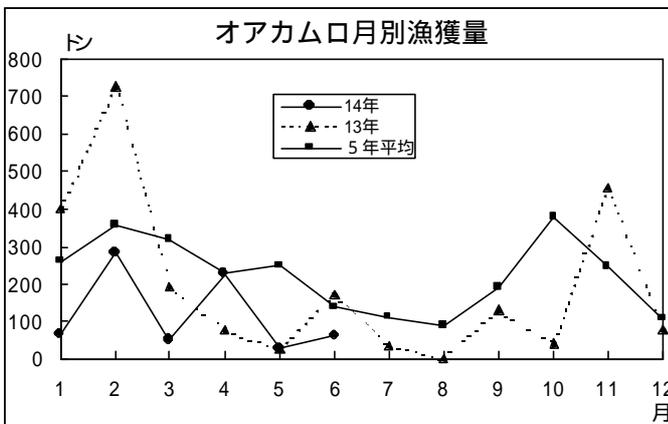


図 オアカム口漁獲量変化(4港計)

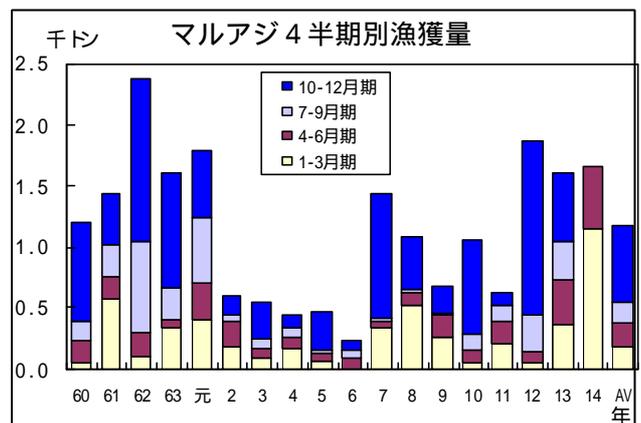
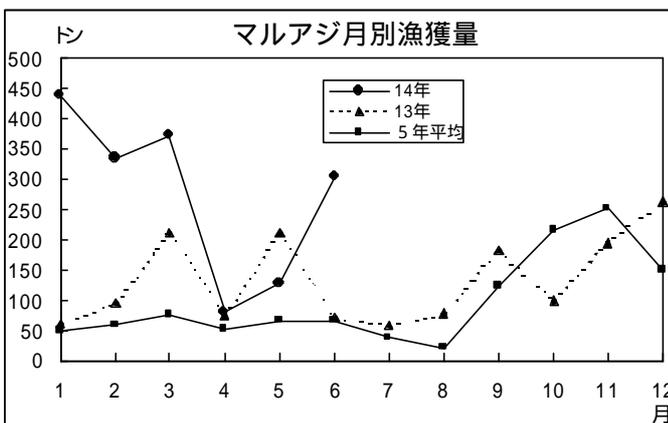


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成9~13年)の平均値,平成14年6月末までの水揚量を使用。